

(案)

「浜益区の新しい教育環境・施設に関する地域意見の取りまとめ」

1. はじめに

石狩市では、少子高齢化の進行により厳しさを増す浜益区の教育現場において、持続可能な学びの場を確保するため、浜益中学校の有効活用を基本とした小中一体の義務教育学校の整備と、0歳児保育のスタートに向けた環境整備を進めることとし、その検討を担う「(仮称) 浜益学園設立準備部会」を設置しました。

当部会では、「浜益区の新しい教育・保育環境の整備」の検討にあたり、「浜益区の教育環境を考えるワークショップ(令和3年4月)」及び「浜益区の新しい教育・保育環境の整備に関する保護者説明会(令和4年1月)」において参加者から提案された意見を整理するとともに、先に実施した「子どもアンケート」の結果と当部会からの意見を追加した上で、区分ごとに整理し、以下のとおり取りまとめました。

整備の基本方針である既存中学校用地への施設集約においては、限られた敷地を最大限有効に活用するための工夫と、必要な設備・機能の導入が必要となります。

今回取りまとめた地域意見は、今年度発注の基本設計に活用するとともに、「学校の特色づくり」「教育目標、学校経営方針」検討のための基礎資料とします。

2. 意見取りまとめの考え方

(1) ソフト実現のために必要なハードを検討

・浜益区が持っているポテンシャルに着目、それを最大限活かせる新しい教育・保育の実践のため、こういったハード(空間やスペース)が必要か。

(2) 「子ども」と「地域」の双方にメリット

・「子ども」の視点のもとより、「地域」目線でも検討することで、現状よりもさらに地域に開かれた学校・保育園づくりを目指す。

(3) 4領域に分類しながら整理

・「ソフト」と「ハード」、「子どもたち」と「地域色」。

(4) 意見のとりまとめ

・準備部会では、① 区民ワークショップ(R3.4月)、② 保護者説明会(R4.1月)の意見に加え、③ 部会員からの意見出し(7/11第2回部会)、④ 子どもアンケートからの意見出し(7/27第3回部会)で意見の集約と取りまとめを進めてきた。

3. 施設に関する地域意見の取りまとめ結果

(1) 子どもたちの視点に立った学びの実践(ソフト面)

① 「浜益ならではの」特別仕様

ア 保・小・中の連携

・子どもの個性を伸ばす対応

(案)

- ・保・小・中のあいさつ運動の実施
- ・交流学习や行事の実施
- ・複式学級のデメリットをフォロー
- ・小・中相互で活かせる先生の配置
- ・中学生に勉強を教えてもらう、保育園児が遊べるおもちゃを作る実習など

② 施設機能や付帯機能

ア 施設管理のDX

- ・相互使用教室のスケジュール管理の工夫

イ 学習機能の向上

- ・小・中授業時間の違いへの対応（ノーチャイムなど）

ウ 給食の充実

- ・セレクト給食、バイキング給食などの実施
- ・災害備蓄カレーの改善

③ その他

ア 0歳児保育

- ・給食対応をどうするか

イ 放課後の居場所

- ・放課後の学習塾機能
- ・自主的に学習
- ・夏・冬休み中の子どもの居場所づくり

(2) 子どもたちがいきいき学ぶ教育環境の整備（ハード面）

① 「浜益ならではの」の特別仕様

ア 遊具の設置

- ・保育園児が遊べる遊具
- ・シーソー、ブランコ、スライダー、ジャングルジム

イ 見晴台、東屋の設置

- ・校舎から見える景観を活かす
- ・海が見える部屋
- ・パーゴラや東屋

ウ 格技場跡地の有効利用

- ・狭い敷地を有効活用する
- ・駐車スペースとしての活用
- ・気軽に休めるベンチの設置

エ その他

- ・リモート学習スペース
- ・多目的スペース（軽スポーツも可能な）

(案)

② 施設機能や付帯機能

ア 教室のゆとり確保

- ・今の教室は一つ一つが広過ぎる（高校基準）
- ・余裕のある教室数
- ・特別支援学級教室の確保
- ・小学生も中学生も使える調整可能な机
- ・壁などもリフォームしては（新築そっくりさん）
- ・特別教室の使い勝手を改善
- ・美術室、図工室、被服室の充実
- ・音楽室を使いやすく、サブ音楽室などは
- ・図書室の広さ確保、蔵書の充実

イ 体育館の機能向上

- ・広い体育館、サブ体育館
- ・屋上運動場
- ・放課後に遊べる体育館
- ・備品置き場が狭い
- ・自動バスケットゴール

ウ 上グラウンドの整備

- ・グラウンドを広くして欲しい、少し山を削ってはどうか
- ・陸上競技グラウンド、100mコースが必要
- ・校舎から遠くて不便
- ・日陰や東屋が必要
- ・水道、水洗トイレ、ウォシュレット
- ・排水設備、照明、駐車場の確保
- ・プール、水遊び場
- ・クマ対策も必要では（柵の設置等）

エ 管理関係室の充実

- ・職員室が狭い、設計の工夫
- ・放送などの有線
- ・多目的トイレ
- ・玄関はオートロック

オ 更衣室の確保

- ・教職員用、生徒用それぞれ

カ 新旧校舎の一体感確保

- ・渡り廊下をそれぞれの階に設置
- ・渡り廊下を3階にしてはどうか
- ・海が見える渡り廊下
- ・資料室

キ 学習機能の向上

- ・自習室の設置

(案)

- ・上下動の黒板
- ・黒板よりもホワイトボードの方が良いか
- ク 快適な学習環境の確保
 - ・各階、各教室にプリンタの設置
 - ・クーラーの設置（全室 or 全教室 or 図書室や多目的室 or 保育園）
 - ・地域開放のためにもエアコン
 - ・教室にウォーターサーバー
- ケ 遊具の設置
 - ・がけ地の方に設置
 - ・園庭、広場、遊具
 - ・保育園児用の遊具
- コ 登下校、送迎の利便性
 - ・スクールバスの利便性向上
 - ・バスはあまり大きくなくても良い
 - ・保育園児も一緒にスクールバスに乗ってはどうか
 - ・駐車場の位置、必要量の確保
 - ・小、中登校と保の送迎をずらす必要は

③ その他

- ア 仮校舎の準備
 - ・工事中の学びの保障
- イ 子ども、子育て支援
 - ・学童保育（特に長期休業時）
 - ・預かり保育

(3) 地域とより密着した学園を実現するために（ソフト面）

- ① 「浜益ならでは」の特別仕様
 - ア 「地域が先生」プログラム
 - ・浜益学（習）
 - ・地元人材の活用
 - ・古老の活用による学習
 - ・昔の浜益の学習、古い浜益の書籍等の活用
 - イ （仮称）浜益学園フォーラムの開催
 - ・地域の人に参加できるイベント
 - ・地元団体との協力体制
 - ・大人が子どもを見る機会
 - ・地域が教材
 - ウ 裏山の有効活用
 - ・畑づくり学習
 - ・学校水田でお米を作る

(案)

- ・柵がないとシカやタヌキにやられる
- ・昔、裏の斜面でスキーをしていた
- ・歩くスキー（どこでもできる）

② 施設機能や付帯機能

- ア 上グラウンドの利便性向上
- ・運動会時のグラウンドの車乗り入れ

③ その他

- ア 高校、高等教育との連携
- ・通信制高校や大学等とのパイプ
 - ・有朋高校の授業設備が進化している
- イ 山村留学
- ・10年先を考え外から子どもを
 - ・浜益や学校のPR活動

(4) 地域に役立つ新しい学校（ハード面）

① 「浜益ならでは」の特別仕様

- ア 地域の人が集まるホール
- ・地域の人との交流、ふれあいの場
 - ・憩いのオープンスペース、温もりと憩いのスペース
 - ・教育に地域の人がかかわる拠点
 - ・会議室
 - ・浜益小、中、高の資料室
 - ・浜益の歴史関係展示
 - ・校舎、施設が住民も利用可
 - ・「千本ナラ」の木材を利用した内装
- イ 再生可能エネルギー活用設備
- ・再エネ設備
 - ・屋上にソーラーパネル
 - ・蓄電池など

② 施設機能や付帯機能

- ア バリアフリー化
- ・エレベーター
 - ・避難所として使用するためのバリアフリー化
 - ・0～100歳に優しいユニバーサルデザイン
 - ・今の校舎と統一感のある新校舎デザイン
 - ・小・中の設備の違いへの対応

(案)

- ・小・中の規格差への対応
- ・SDGs
- エ 駐車場の確保
 - ・職員の駐車スペース
 - ・台数の確保が必要
 - ・地域の人も車で来る
 - ・2階建ての駐車場
 - ・増築校舎の1階を駐車場には
- ウ 教員住宅の整備
 - ・安心して住める住宅確保
 - ・水洗トイレ
- エ 給食センター
 - ・給食センター必要
 - ・0歳児の調理室

③ その他

- ア 避難所としての機能向上
 - ・ソーラー発電
 - ・自家発電の設備
 - ・再エネ蓄電池
 - ・防災備蓄品置き場の確保
 - ・シャワー設備
 - ・避難所のための個室
 - ・避難所用の区画テント
- イ 山村留学設備
 - ・山村留学のための寮の併設

4. 今後の見通し

令和4年10月	配置案の決定
11月	令和4年度第2回CS会議（基本設計（案）の説明）
令和5年1月	基本設計の完了

令和4年8月 日 確定

(仮称) 浜益学園設立準備部会